

国も市もアイヌ民族の切実な声に応えていると言えるのが

アイヌ政策推進交付金とアイヌ共同納骨堂の修繕

アイヌ政策推進交付金の「はしごはずし」

動物園のヒグマ舎

設計はOK、着工はダメ

文化振興や福祉に特化していた面のあるアイヌ政策を、地域・産業振興、国際交流にも広げるためアイヌ政策推進交付金が設けられました。これを使って動物園のリニューアル事業が、これまで進んできました。

観光以外はゼロ査定も

他にも、4年度までは認めておいて5年度の継続はダメとされたものが、ムックリの演奏講習会、ヒメマスまつりの情報発信など。一方、阿寒湖の観光施策に関連した事業はすべて予算案に盛り込まれました。（国の交付金の正式承認はこれからです）
様々な分野の施策を進めることは賛成できますが、先住権の保障と経済的自立策、福祉施策の充実こそ急がれています。



「カムイに会える」をキーワードマに、ヒグマ舎を核とした大改修です。交付金を使って計画策定、設計と進

アイヌ共同納骨堂の修繕見送り

昨年9月議会で村上議員は紫雲台墓地にある「アイヌ共同納骨堂」について質問しました。

「アイヌ協会への管理委託費が経費を大幅に下回っている」という村上議員のもう一つの指摘には、増額が図られるようです。

として建て替えが進んでいきます。しかし管理人が常駐しないため、オープン後に「アイヌ文化に触れたい」と訪ねても閉まっていることになりかねません。

修繕がされず雨漏り（床や壁にカビ、屋内の水たまり）、屋外の碑などが破損・老朽化、急場の補修は委託された人が自費で賄っているなど、死者の尊厳が保たれていません。アイヌ協会からも「市の施設でありきちんと直してほしい」と要望されています。

担当課も反省。建築課の技術職を伴って施設を総点検、屋上防水も含めた修繕が必要と判断しました。しかし、5年度の予算編成で一転、修繕が見送られたのです。

新春採生活館では



釧路アイヌ協会の活動拠点

展示内容を来館者に説明したりするコーディネーターの配置が求められます。常駐する人がいる、いないで、利用人数・活動内容が大きく変わるからです。
それなのに、利用開始の4月からの配置はダメが「市の結論」。まずは利用状況を見て考えると、後ろ向きの姿勢です。